

特別活動(中学校)

学校行事はどう改善されたのか。

1 学校行事の目標

学校行事の目標については、学習指導要領第5章の第2の〔学校行事〕の1「目標」で、次のように示している。

学校行事を通して育てたい態度や能力を、新たに目標として示した。

学校行事を通して、望ましい人間関係を形成し、集団への所属感や連帯感を深め、公共の精神を養い、協力してよりよい学校生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。

よりよい人間関係を築く力、公共の精神を養うこと、社会性の育成を図ることを重視した。

学校行事は、全校又は学年という大きな集団を単位として、日常の学習や経験を総合的に発揮し、その発展を図る体験的な活動である。
学校行事は、このような大きな集団を単位として望ましい集団活動を通して、望ましい人間関係を形成し、集団への所属感や連帯感を深め、公共の精神を養い、協力してよりよい学校生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育成することを目標としている。

学校行事においては、このような目標を実現する過程で、自らを律しつつ自分に自信をもって学校生活を送れるようにし、規律、協同、責任、思いやりなどの社会性や集団行動における望ましい態度を育てるとともに、学校集団としての活力を高め、生徒の学校生活に張りをもたせ楽しく豊かなものにすることができる。さらには、学校の文化や伝統及びよりよい校風をつくり、愛校心を高めることにもつながる。

○ 学校行事で育てたい「望ましい人間関係」とは？

全校又は学年という大きな集団において、学校生活を豊かな実りあるものにするために、生徒が学級や学年を超えた様々な生徒と主体的にかかわる中で、喜びや苦勞を分かち合いながら、共通の目標を達成しようとするなど、共に協力し、信頼し支え合おうとする人間関係である。また、地域の様々な人々との幅広い交流、職場体験活動やボランティア活動などの社会体験などを通して、他者を尊重し、共によりよい集団生活や社会生活を築いていこうとする開かれた人間関係である。

○ 学校行事で育てたい「自主的、実践的な態度」とは？

教師の意図的、計画的な指導の下に、生徒自らが目標をもち、学校や社会の一員としての役割や責任を果たし、集団行動における望ましい態度など、人間としての生き方についての自覚を深めるとともに、自己を生かし、協力してよりよい学校生活を築き、発展させようとする自主的、実践的な態度である。

学校行事は、学校が計画し実施するものであるとともに、各種の行事に生徒が積極的に協力することによって充実する教育活動である。したがって、行事の特質や、生徒の実態に応じて、生徒の自主的な活動を助長することが大切である。その際、放任になることがないように、また、発達の段階からいって生徒が活動のために必要な基礎的な知識や技能を十分身に付けていない場合もあり、教師の適切な指導・助言が必要である。

2 学校行事の内容

学校行事については、学習指導要領第5章の第2の〔学校行事〕の2「内容」で、次のように、その特質と5種類の行事を示している。

全校又は学年を単位として、学校生活に秩序と変化を与え、学校生活の充実と発展に資する体験的な活動を行うこと。

- (1) 儀式的行事
- (2) 文化的行事
- (3) 健康安全・体育的行事
- (4) 旅行・集団宿泊的行事
- (5) 勤労生産・奉仕的行事

「体験的な活動」、あるいは「学校生活に秩序と変化を与え」は、他の教育活動では容易に得られない教育的価値を実現する場としての学校行事の特質を述べたものである。これは、ともすると単調になりがちな学校生活に望ましい秩序と変化を与える学校行事を、年間を通して計画的に実施することによって生徒の学校生活にリズムを与え、折り目を付け、より生き生きとした生活を実現するのである。さらに、このような学校行事の体験を積み重ねることによって、「集団への所属感や連帯感を深め」、「公共の精神を養い」、「学校生活の充実と発展に資する」ことを期待しているのである。

(1) 儀式的行事

学校生活に有意義な変化や折り目を付け、厳粛で清新な気分を味わい、新しい生活の展開への動機付けとなるような活動を行うこと。

現行学習指導要領では、「～成果を総合的に生かし」となっているが、今回「～成果を発表し」と改め、何を行うかより明確に示している。

(2) 文化的行事

平素の学習活動の成果を発表し、その向上の意欲を一層高めたり、文化や芸術に親しんだりするような活動を行うこと。

本物の文化や芸術に触れたり鑑賞したりする活動、文化の継承に寄与する活動などを充実する観点から、「学芸的行事」を「文化的行事」と改め、「文化や芸術に親しむ活動」を加えた。

(3) 健康安全・体育的行事

心身の健全な発達や健康の保持増進などについての理解を深め、安全な行動や規律ある集団行動の体得、運動に親しむ態度の育成、責任感や連帯感の涵養、体力の向上などに資するような活動を行うこと。

生徒の発達の段階を踏まえ、社会の一員としての自覚と責任感を高め社会的自立を進める観点から、「勤労生産・奉仕的行事」について職場体験を重視することにした。

(4) 旅行・集団宿泊的行事

平素と異なる生活環境にあつて、見聞を広め、自然や文化などに親しむとともに、集団生活の在り方や公衆道徳などについての望ましい体験を積むことができるような活動を行うこと。

奉仕体験の意義を明確にした。

(5) 勤労生産・奉仕的行事

勤労の尊さや創造することの喜びを体得し、職場体験などの職業や進路にかかわる啓発的な体験が得られるようにするとともに、共に助け合って生きることの喜びを体得し、ボランティア活動などの社会奉仕の精神を養う体験が得られるような活動を行うこと。

生徒の入学から卒業までを見通した学校としての全体計画の下に実施する必要がある。